



日本植物病理学会ニュース 第47号

(2009年8月)

【名誉会員・永年会員の略歴とお話】

名誉会員 小島 誠



昭和13年10月19日北海道生まれ。昭和36年3月新潟大学農学部農学科卒業。昭和38年3月北海道大学大学院農学研究科農業生物学専攻修士課程修了。昭和40年1月同博士課程中途退学。昭和40年2月北海道大学農学部助手。昭和53年4月新潟大学農学部助教授。昭和59年12月新潟大学農学部教授。平成7年4月新潟大学農学部長（平成11年3月まで）。平成11年4月新潟大学大学院自然科学研究科長（平成15年3月まで）。平成16年3月新潟大学定年退職。平成16年4月新潟大学名誉教授。平成18年4月放送大学新潟学習センター所長。平成21年3月退職。現在に至る。その間、昭和46年3月「ジャガイモ葉巻ウイルスに関する研究」で北海道大学より農学博士を取得。昭和50年12月から1年間、文部省在外研究員としてオランダ国立農科大学（ワーゲニンゲン）に出張。非常勤講師として山形大学農学部で植物ウイルス学（平成元年と3年）、三重大学生物資源学部で植物ウイルス学（平成5年と6年）、富山県立農業短期大学で植物病理学（平成2年から6年）の講義を担当した。平成8年に「日本で発生するルテオウイルスに関する研究」で日本植物病理学会賞を受賞した。平成15年4月日本植物病理学会長。その他、学会関係では編集幹事、評議員、日本ウイルス学界理事等の役職を務めた。また、平成9年度植物感染生理談話会を湯沢市で、平成11年度日本植物病理学会大会を新潟市で開催した。平成21年4月名誉会員。植物病理学との係わりでは、新潟大学で天野（平田）幸治先生との邂逅が決定的なものとなる。その後、先生に薦められ北海道大学でウイルスを学ぶことになった。恩師村山大記先生並びに四方英四郎先生にご指導を頂戴した。ジャガイモ葉巻病

の病原ウイルスの探索をテーマとして頂いた。そのご縁で、以後アブラムシ永続伝染性のウイルス（主としてルテオウイルス）を中心に研究を進めることができた。願わくは学会が植物病理学の教育にも更に熱心であっていただきたい。

名誉会員 鈴木 孝仁



1933年10月東京都に生まれる。46年都立園芸学校（中学）入学が農業との関わりとなり、河村貞之助氏のもとで植物病理学を専攻し、56年千葉大学園芸学部卒業。同年、北海道農業試験場に勤務し、田中一郎氏、鎧谷大節氏のもとでアスパラガス、インゲンマメなど畑作物の病害研究に従事した。アスパラガス紫紋羽病では土壌中の病原菌の行動、定着を見続け、本病は衰弱病であるとした。インゲンマメでは菌核病菌の子のう胞子飛散と発病を解析した。62年北海道大学（宇井格生氏）へ国内留学し植物遺体におけるサクセッションをみた。この時、第1回土壌伝染病談話会が開催され多くの研究者との交流機会を得た。73年熱帯農業研究センターからタイ国に派遣され、果樹類を中心とする疫病の病原同定と発生調査を行った。78年静岡県農業試験場に出向し、イチゴ萎黄病を中心に施設果菜の病害を担当した。83年農業技術研究所（農業環境技術研究所）へ転勤し、拮抗微生物による病害防除研究を開始した。88年農業生物資源研究所に移り、微生物遺伝資源を中心に遺伝資源事業の基盤づくりに関与した。94年農水省を退職後、(株)エス・ディー・エスパイオテックつくば研究所、生物系特定産業技術推進機構に2003年まで勤務した。

学会への関与では、京都での国際植物病理学会議会場係にはじまり、評議員、会計監査、病名委員会、貢献者推薦委員会等に関与した。なかでも病名委員会では、新病名の

申請制度の導入，日本有用植物病名目録第2巻，日本植物病名目録（2000）の編集に関わった。土壤伝染病談話会には長い間おつき合いさせてもらった。また，脇本 哲氏のもとでバイオコントロール研究会の設立をお手伝いした。微生物関連では，日本土壤微生物学会，日本微生物資源学会，日本菌学会，学術会議植物防疫研連，世界微生物保存連盟防疫委員会，OECD 生物資源理事会に関係した。また，JICA をはじめ様々な形で海外出張させていただいた。

学会にはインパクトファクター，食料自給率向上など多くの課題をかかえる中，社会への貢献を期待したい。

永年会員 比留木 忠治



昭和6年6月16日長崎県出生。昭和29年九州大学農学部卒業。同年日本専売公社入社，秦野たばこ試験場勤務。昭和33年ウィスコンシン大学留学（フルブライト資金），生化学部スターマン研究室植物病抵抗性グループに属して，瓜谷郁三，富山宏平，ルドルフ・ハイテフスの諸先生

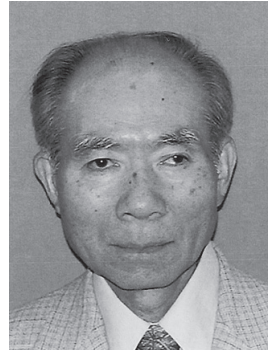
とともに1年をすごした。昭和38年TMVの系統および変異に関する研究で農学博士（九州大学）取得。同年8月から1年間カリフォルニア大学パークレー校で植物ウイルスの *Olpidium* 属菌による媒介の研究（研究准教授）に従事し，更にウィスコンシン大学生化学部ケーズベルグ研究室において2年間植物ウイルスの分子生物学的研究に従事。昭和41年カナダ・アルバータ大学大学院に植物ウイルス研究室を創設。平成8年定年退職まで，カナダにおける植物ウイルス・ファイトプラズマ研究の中心として知られた。国際的に英国，米国，スウェーデン，フランス，旧ユーゴスラビア，チリ，インド，中国，韓国，日本などから受け入れた留学生は，卒業後出身国で指導的役割を果たしている。

学会活動：日本植物病理学会国際対応委員会委員として約10年間活動。第5回国際植物病理学会議の開催準備初期に国際植物病理学会理事として大きな影響力のあったケルマン教授を実情視察に招待することを建言，日本での開催決定の端緒を開いた。京都における同会議に際して，土壤菌類による植物ウイルスの伝搬に関する国際研究グループの結成を提唱。爾来20ヶ国から250人の会員を擁して3年ごとに国際シンポジウムを開催してきた。米国植物病理学会ウイルス部会会員として5年間活動。平成3年シンポジウム“Structure and Function of Plant Virus Genomes”を

開催し，その成果を編集発行。カナダ植物病理学会の役員として5年間活動。平成2年カナダ植物病理学会会長。国際植物病理学会役員（企画・財政担当）として11年間活動。研究論文約250篇，著書多数。

受賞歴：日本，米国，カナダの各植物病理学会賞，国際マイコプラズマ学会生涯優秀研究賞，カプラン優秀研究賞，カナダ王立学士院会員，国際植物病理学会名誉会員。

永年会員 長井 雄二



昭和5年6月山口県生まれ。昭和36年東京大学農学部農学科卒業。同年4月千葉県職員に採用。県農業試験場病害虫研究室に勤務，発生予察業務の傍ら，主として，野菜と花の病害研究に従事した。昭和50年5月病害虫研究室長，59年4月技術連絡室長，62年4月農業試験場次長，63年3月千葉県を定年退職。その後，10年間千葉県農業大学校で植物病理学を担当，学生指導に当たった。

農業試験場在職の27年間は最後の4年間を除き，病害虫研究室にあって，病害研究に専念できたことは，今ではほとんど考えられないほどの幸運であった。と同時に，私が在職した昭和30年代から50年代は，千葉県では，レタス，キャベツ，キュウリ，ストックなど野菜や花の菌核病，スイカの緑斑モザイク病，トマトのTMV，ピーマンのTMVトウガラシ系（TMV-P，のちにトウガラシ微斑ウイルス，PMMoV），*Phytophthora*，*Pythium*などによる野菜や花の土壤病害など，産地の興廃を左右するほどの重要病害が次々に発生し，その発生生態の究明や防除法の確立など，やりがいのある研究に没頭することができた。

この間の研究成果は，学位の取得（昭和55年，東京大学，タバコモザイクウイルスに起因するトマトおよびピーマンのモザイク病に関する研究）に結びつき，また，農業技術功労賞（昭和61年，弱毒ウイルスによるトマトおよびピーマンモザイク病防除法の確立），日本植物病理学会賞（昭和63年，野菜類ウイルス病の防除に関する研究）を頂いた。有難いことでした。諸先輩をはじめ，関係の方々の賜物と，いまでも感謝しています。

定年後の農業大学校の10年間は，植物病理学の講義，実験，卒論指導などの傍ら，趣味がらみの研究成果が結実して，ランやバラなどの病害虫の実用書を次々に出版でき，多くの人たちに喜んでいただけたことは重ねがさねありがたいことでした。

永年会員 山口 武夫



昭和8年(1933年)12月8日、長崎県生まれ、昭和34年(1959年)九州大学農学部農学科卒業、昭和36年(1961年)同大学院農学研究科修士課程修了。同年4月特殊法人日本てん菜振興会でん菜研究所支所(熊本)に研究員として勤務、昭和42年てん菜研究所(札幌)に転勤、昭和48年7月日本てん菜振興会の廃止に伴い農林水産省北海道農業試験場に勤務(てん菜部主任研究官)、この間テンサイ苗立枯病、根腐病、褐斑病及び萎黄病などの病原体の同定、発生生体の解明と防除法の確立に関する研究を行い、苗立枯病の病原体が*Pythium*属菌7種、*Rhizoctonia solani*、*Aphanomyces cochlioides*、*Fusarium* sp.、*Sclerotium* sp.及び*Phoma betae*であること、さらに主たる病原菌は*Pythium*属菌、*Rhizoctonia solani*及び*Aphanomyces cochlioides*であることを明らかにした。また病原菌の種類が寒地(北海道)と暖地(九州)で若干異なることを示した。昭和50年「テンサイ苗立枯病に関する研究」で農学博士(九州大学)。昭和54年2月から昭和56年9月まで国際協力事業団の長期派遣専門家としてインドネシア豆類研究強化プロジェクトに参加し、*Rhizoctonia solani*によるマングビーン及びダイズの葉腐症状の発生、イネ紋枯病の薬剤防除、及びトウモロコシと病の種子処理による薬剤防除などを行った。昭和56年9月熱帯農業研究センターに転勤、昭和58年7月～昭和61年3月は企画連絡室研究企画科長。昭和61年4月中国農業試験場環境部病害第二研究室長、イネ紋枯病の薬剤防除、アブラナ科野菜根こぶ病、ダイズ黒根腐病及び白絹病などの研究を行う。昭和63年10月熱帯農業研究センター研究第二部長、平成4年3月同研究第一部長。平成5年4月九州東海大学農学部教授、平成12年3月定年退職、その後、平成16年まで佐賀大学農学部及び九州東海大学農学部にて非常勤講師として勤務。この間、熱帯・亜熱帯地方の作物や土壌から分離される*Rhizoctonia solani*の類別及びメロンがんしゅ病の発病生態解明などの研究指導を行った。なお、勤務先の名称は勤務当時の名称で、現在は変更されている。

【学会活動状況】

平成21年度大会学生優秀発表賞

受賞者を下記のように決定した。

青木菜々子(農工大農) *Alternaria alternata* mycovirus 1

のウイルス様粒子を構成するタンパク質の生化学的解析

宮下脩平(東大院農) ムギ類萎縮ウイルス SBWMV の細胞間移行において隣接細胞で感染を成立させるウイルスゲノム数の推定

石山佳幸(静岡大農) カンキツかいよう病菌の病徴発現におけるテロメレーズの役割

晝間 敬(京大院農) EDR1 は PEN2 に依存しない非宿主抵抗反応を正に制御している

加藤亮宏(農工大院農) *Talaromyces* sp. KNB-422 によるイネばか苗病生物防除メカニズムの解析

奥出祥子(静岡大農) *Xanthomonas* 属細菌のエフェクター(AvrBs3/PthA ファミリー) の抵抗性遺伝子 *Bs3* プロモーター領域への結合解析

田中尊徳(静岡大農) *Pectobacterium carotovorum* subsp. *carotovorum* 由来フラジェリンにおける細胞死誘導必須部位の決定

【今後の学会活動予定】

九州部会の開催が学会ニュース第45号で紹介された開催予定日時から変更されておりますのでご注意ください。

九州部会

日 時：平成21年11月9日(月)～10日(火)

場 所：グランデはがくれ(公立学校共済組合佐賀宿泊所)

〒840-0815 佐賀市天神2丁目1番36号

Tel: 0952-25-2212 Fax: 0952-24-2727

連絡先：鹿児島大学農学部 中村正幸

E-mail: masa@agri.kagoshima-u.ac.jp

Tel: 099-285-8683

【会員の動静】

1. 人事

(1) 大学関係

戸田 武	H20. 1	秋田県立大学 生物資源科学部 助教
安藤杉尋	H21. 4	東北大学 大学院 農学研究科 植物病理学分野 助教
堀江博道	H21. 4	法政大学 生命科学部 植物医科学専修 教授
奥田誠一	H21. 3	[退職] 宇都宮大学 農学部 植物病理学研究室 教授
井村善之	H21. 4	日本大学 生物資源科学部 植物病理学研究室 専任講師
五味剣二	H20. 4	香川大学 農学部(植物病理学) 助教

須賀晴久	H20. 5	岐阜大学 生命科学総合研究 支援センター 准教授	竹中重仁	H21. 4	農研機構本部 総合企画調整 部研究調査チーム長 [北海道 農研 根圏域研究チーム (芽 室) 上席研究員]
高野義孝	H20.10	京都大学大学院 農学研究科 植物病理学研究室 准教授	津田新哉	H21. 4	中央農研 昆虫等媒介病害研 究チーム長 [昆虫等媒介病害 研究チーム 上席研究員 兼 生物的病害制御研究チーム]
松本 勲	H21. 3	[退職] 愛媛大学 農学部 植 物病理学研究室 教授	酒井啓充	H21. 4	中央農研 病害虫検出同定法 研究チーム研究員 [横浜植防 調査研究部]
久保田真弓	H21. 3	[退職] 岐阜大学 応用生物 科学部 植物病理学研究室 助教	窪田昌春	H21. 4	野菜茶研 企画管理部業務推 進室企画チーム長 [野菜茶研 企画管理部業務推進室企画 チーム長 兼 野菜 IPM 研究 チーム]
多田安臣	H21. 4	香川大学 遺伝子実験施設 (植物病理学) 准教授	永坂 厚	H21. 4	東北農研 寒冷地野菜花き研 究チーム研究員 [東北農研寒 冷地野菜花き研究チーム研究 員 兼 中央農研 生物的病 害制御研究チーム]
尾崎克巳	H21. 3	[退職] 南九州大学 園芸学部 園芸学科 園芸植物病理研究室 教授	伊藤陽子	H21. 4	近中四農研 環境保全型野菜 研究チーム (綾部) 主任研究 員 [農研機構本部 総合企画 調整部研究調査 チーム主任 研究員]
(2) 農水省関連独法関係					
中畝良二	H20.10	農林水産省 農林水産技術会 議事務局 研究専門官 [果樹 研究所 果樹病害研究チーム (安芸津) 主任研究員]	平八重一之	H21. 4	九州沖縄農研 企画管理部業 務推進室長 [中央農研 病害 抵抗性研究チーム上席研究員 兼 稲遺伝子技術研究北陸サ ブチーム]
須崎浩一	H20.10	果樹研 果樹病害研究チーム (安芸津) 上席研究員 [果樹研 果樹病害研究チーム (盛岡) 主任研究員]	吉田隆延	H21. 4	生研センター 生産システム 研究部主任研究員 [農環研 生物生態機能研究領域主任研 究員]
仙北俊弘	H21. 3	任期満了 [国際農研 理事]	野田孝人	H21. 4	国際農研 生物資源領域主任 研究員 [国際農研 企画調整 部広報室長]
高橋賢司	H21. 3	退職 [中央農研 研究管理監]	川部眞登	H21. 4	中央農研 病害虫検出同定研 究チーム任期付研 採用
吉田幸二	H21. 3	退職 [果樹研 研究管理監]	古屋典子	H21. 4	果樹研 果樹病害研究チーム 任期付研 採用
萩原 廣	H21. 3	退職 [野茶研 研究管理監 (つ くば)]	岸本久太郎	H21. 4	花き研 花き品質解析チーム
大村敏博	H21. 3	退職 [中央農研 昆虫等媒介 病害研究チーム長]			
石井英夫	H21. 3	退職 [農環研 生物生態機能 研究領域上席研究員]			
藤田佳克	H21. 4	中央農研 研究管理監 [中央農 研 病害抵抗性研究チーム長]			
築尾嘉章	H21. 4	花き研 企画管理室長 [花き研 生育開花調節研究チーム長]			
對馬誠也	H21. 4	農環研 農業環境インベント リーセンター長 [農環研 生 物生態機能研究領域長]			
森脇丈治	H21. 4	富山県農林水産総合技術セン ター園芸研究所花き課 主幹 研究員 (指定試験主任) [中央 農研 北陸水田輪作研究チー			

		任期付研 採用	雪田金助	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター りんご研究所 県南果樹部 部長
小泉信三	H21. 5	中央農研 病害抵抗性研究チ ーム長 [東北農研 寒冷地温暖化 研究チーム上席研究員]	近藤伸子	H21. 4	青森県病害虫防除所
荒井治喜	H21. 6	中央農研 病害抵抗性研究チ ーム (北陸) 上席研究員 [九州 沖縄農研 九州水田輪作研究 チーム (西合志) 上席研究員]	山本晋玄	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター りんご研究所病虫部 研究員
			近藤 亨	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター 農林総合研究所 病虫部 主 任研究員
(3) 都道府県試験研究機関関係			福土好文	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター りんご研究所病虫部 研究管 理員
角野晶大	H21. 4	北海道立花野菜技術センター 研究部 病虫科 科長	武田眞一	H21. 3	退職 [岩手県] (岩手県農業研 究センター所長)
相馬 潤	H21. 4	北海道立中央農試 生産環境 部 病虫科 科長	中南 博	H21. 4	岩手県農林水産部 流通課 主任主査
新村昭憲	H21. 4	北海道立中央農試 生産環境部 病虫科 研究職員	千葉克彦	H21. 4	岩手県奥州農業改良普及セン ター 上席農業普及員
荒井茂充	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター 野菜研究所 病虫部 部長	勝部和則	H21. 4	岩手県農業研究センター企画 管理部研究企画室 主任専門 研究員
岩間俊太	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター 農林総合研究所 病虫部 主 任研究員	佐々木直子	H21. 4	岩手県一関農業改良普及セン ター 農業普及員
對馬由記子	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター 農林総合研究所 花き部	長田 茂	H21. 3	退職 [宮城県]
忠 英一	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター りんご研究所 県南果樹部 研 究管理員	中村茂雄	H21. 4	宮城県産業技術総合センター 食品バイオ技術部 微生物・ バイオ応用係長
赤平知也	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター りんご研究所病虫部 主任研 究員	菅野博英	H21. 4	宮城県古川農業試験場水田利 用部 副主任研究員
山下一夫	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター 野菜研究所病虫部 研究管理員	笹原剛志	H21. 4	宮城県農林水産部農産園芸環 境課 環境対策班 主任主査
桑田博隆	H21. 3	退職 [青森県] (青森県農林総 合研究センター次長)	鈴木智貴	H21. 4	宮城県古川農業試験場作物保 護部 技師
倉内賢一	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター 農林総合研究所 病虫部 主 任研究員	竹田富一	H21. 4	山形県置賜農業技術普及課 次長
及川 健	H21. 4	青森県病害虫防除所六戸町駐在	菅原 敬	H21. 4	山形県庄内酒田農業技術普及課 主任専普指導員
太田恵二	H21. 4	青森県病害虫防除所	平子喜一	H21. 4	福島県県南農林事務所農業振 興普及部 副部長
小笠原博幸	H21. 4	青森県病害虫防除所六戸町駐在	皆川博孝	H21. 4	福島県南会津農林事務所南郷 普及所 主査
岩谷香緒里	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター 農林総合研究所 病虫部 研 究員	菅野英二	H21. 4	福島県県北農林事務所農業振 興普及部 主査
杉山 悟	H21. 4	(地独)青森県産業技術センター 農林総合研究所 病虫部 部長	宮本拓也	H21. 4	茨城県農業総合センター園芸

		研究所病虫研究室 技師	市川 健	H21. 4	静岡県産業部農林業局農山村共生室農産環境スタッフ 主幹
米山一海	H21. 4	茨城県鹿行農林事務所行方地域農業改良普及センター 主任	伏見典晃	H21. 4	静岡県農林技術研究所生産環境部（植物保護）主任研究員
小川孝之	H21. 4	茨城県県西農林事務所経営・普及部門 専門員	内山 徹	H21. 4	静岡県農林技術研究所茶業研究センター生産環境（病害虫）副主任
白石俊昌	H21. 4	群馬県農政部技術支援課 生産環境室長	横山泰裕	H21. 4	新潟県農業総合研究所園芸研究センター センター長
剣持伊佐男	H21. 4	群馬県吾妻県民局吾妻農業事務所普及指導課 次長	佐藤秀明	H21. 4	新潟県農業総合研究所園芸研究センター
野田 聡	H21. 4	埼玉県農林総合研究センター病害虫防除技術担当 室長	向島博行	H21. 4	富山県農林水産総合技術センター園芸研究所 副所長
矢ヶ崎健治	H21. 4	埼玉県農林総合研究センター水田農業研究所 育種担当担当部長	岩田忠康	H21. 4	富山県農林水産総合技術センター農業研究所 病理昆虫課課長
平野泰志	H21. 4	埼玉県農林総合研究センター病害虫防除技術担当 専門研究員	守川俊幸	H21. 4	富山県農林水産総合技術センター農業研究所 病理昆虫課主任研究員
宇賀博之	H21. 4	埼玉県農林総合研究センター病害虫防除技術担当 専門研究員	塚本昇市	H21. 4	石川県農業総合研究センター生物資源グループ リーダー
酒井和彦	H21. 4	埼玉県農林総合研究センター病害虫防除技術担当 専門研究員	上田晃久	H21. 4	愛知県農林水産部農業経営課技術・営農グループ
梅本清作	H21. 3	退職 [千葉県] (千葉県農林総合研究センター 病害虫防除課長 4月より再任用 農業大学校)	間下なぎさ	H21. 4	愛知県知多農林水産事務所農業改良普及課 担い手育成グループ
植松清次	H21. 4	千葉県農林総合研究センター病害虫防除課長	藤田智美	H21. 4	愛知県農業総合試験場企画普及部企画調整グループ
海老原克介	H21. 4	千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所 花き研究室	小出隆子	H21. 4	愛知県農業総合試験場環境基盤研究部 病害虫防除グループ
片木新作	H21. 4	神奈川県農業技術センター企画調整部 部長	深谷雅博	H21. 4	愛知県農業総合試験場東三河農業研究所 所長
北 宜裕	H21. 4	神奈川県農業技術センター経営情報部 部長（野菜作物研究部長兼務）	平野哲司	H21. 4	愛知県農業総合試験場山間農業研究所園芸グループ 総括研究員
市川和規	H21. 4	山梨県総合理工学研究機構 研究管理幹	鈴木啓史	H21. 4	三重県農業研究所 循環機能開発研究課 主任研究員
赤沼礼一	H21. 4	長野県農業試験場 場長	川上 拓	H20. 4	三重県農業研究所 伊賀農業研究室 研究員
飯島章彦	H21. 4	長野県野菜花き試験場北信支場支場長	金子 誠	H21. 4	滋賀県東近江農業農村振興事務所農産普及課
武田和男	H21. 4	長野県農業試験場 環境部長	富家和典	H20. 4	滋賀県農政水産部農業経営課
江口直樹	H21. 4	長野県農業試験場 企画経営部研究員	片岡光信	H21. 4	京都府農林水産部 食の安心・

		安全推進課 理事			も研究所 研究員
小坂能尚	H21. 4	京都府農林水産技術センター 生物資源研究センター 所長	島津 康	H21. 4	和歌山県農林水産総合技術セ ンター農業試験場 環境部長
吉川正巳	H21. 4	京都府農林水産技術センター 生物資源研究センター 応用 研究部長	佐古 勇	H21. 4	鳥取県西部総合事務所農林局米 子農業改良普及所 普及主幹
久下一彦	H21. 4	京都府南丹農業改良普及セン ター 主査	新田浩道	H21. 4	広島県立総合技術研究所農業 技術センター 次長
橋本典久	H21. 4	京都府南丹農業改良普及セン ター 主査	栗久宏昭	H21. 4	広島県立総合技術研究所農業 技術センター果樹研究部 副 部長
草刈眞一	H21. 3	退職 [大阪府] (食の安全研究 部長)	香口哲行	H21. 4	広島県立総合技術研究所農業技 術センター 生産環境研究部 副部長
	H21. 4	大阪府 環境農林水産総合研 究所企画調整部 (再任用)	清水佐知子	H21. 4	広島県立総合技術研究所農業技 術センター 生産環境研究部 副主任研究員
相野公孝	H21. 4	兵庫県立農林水産技術総合セ ンター農業技術センター 環 境・病害虫部 研究主幹 (神戸 大学大学院農学研究科資源生命 科学専攻 食料生産フィールド 科学 客員教授 併任)	重田 進	H21. 4	山口県周南農林事務所農業部 主幹
前川和正	H21. 4	兵庫県立農林水産技術総合セ ンター農業技術センター 環 境・病害虫部 主任研究員	岡田知子	H21. 4	山口県岩国農林事務所農業部 産地振興課 主任技師
神頭武嗣	H21. 4	兵庫県立農林水産技術総合セ ンター農業技術センター 環 境・病害虫部 主任研究員	森 充隆	H21. 4	香川県農政水産部農業経営課 環境・植防グループ 主任
西口真嗣	H21. 4	兵庫県立農林水産技術総合セ ンター農業技術センター 環 境・病害虫部 主任研究員	奈尾雅浩	H20. 4	愛媛県農林水産研究所農業研 究部病理昆虫室 主任研究員
岩本 豊	H21. 4	兵庫県立農林水産技術総合セ ンター農業技術センター 環 境・病害虫部 主任研究員	篠崎 毅	H20. 4	愛媛県農林水産研究所果樹研 究センター病理昆虫室 主任 研究員
松本純一	H21. 4	兵庫県立農林水産技術総合セ ンター農業技術センター 農 産園芸部	橘 泰宣	H21. 3	退職 [愛媛県] (愛媛県立農 業大学校 非常勤講師)
杉本琢磨	H21. 4	兵庫県立農林水産技術総合セ ンター農業技術センター 農 産園芸部	楠元智子	H20. 4	愛媛県農林水産研究所農業研 究部病理昆虫室 主任研究員
松浦克成	H21. 4	兵庫県立農林水産技術総合セ ンター農業技術センター 環 境・病害虫部	三好孝典	H21. 4	愛媛県中予地方局産業振興課 産地育成室果樹係 係長
吉本 均	H21. 4	和歌山県農業大学校 教授	竹内繁治	H21. 4	高知県農業振興部 環境農業推 進課 研究安全管理担当チーフ
大谷洋子	H21. 4	和歌山県農林水産総合技術セ ンター果樹試験場 かき・も	森田泰彰	H21. 4	高知県農業技術センター 生 産環境課 病理担当チーフ
			垣内加奈子	H21. 4	高知県農業技術センター 生 産環境課 昆虫担当
			善 正二郎	H21. 4	佐賀県三神農業改良普及セン ター 主査
			松尾和敏	H21. 4	長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 部門長
			吉田満明	H21. 4	長崎県農林技術開発センター

		環境研究部門 病害虫研究室 技師			態とマイコトキシンの低減技術に関する研究（勤務先：宮城県古川農業試験場）
小川哲治	H21. 4	長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部 門馬铃薯研究室 主任研究員	福森庸平	H21. 3	茨城大学（東京農工大学大学院連合農学研究科）博士（農学）灰色かび病菌の有性生殖機構の解明
菅 康弘	H21. 4	長崎県農林技術開発センター 果樹研究部門 コンキッ研究室 主任研究員	Mohamad Chikh Ali	H21. 3	東京農業大学国際食料情報学部 博士（国際農業開発学）Studies on Characteristics and Diversity of Potato Viruses in Syria
内川敬介	H21. 4	長崎県杵岐振興局農林水産部 技術普及課 主任技師	松浦貴之	H20. 1	東京農業大学農学部 博士（農学）バラ科植物火傷病菌及び類縁細菌の系統解析と検出方法に関する研究（勤務先：農林水産省横浜植物防疫所）
中村吉秀	H21. 4	長崎県農林部農産園芸課技術普及班 係長	根津 修	H21. 3	東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士（生命科学）ラッカセイわい化ウイルスのRNAサイレンシングサプレッサータンパク質に関する研究
江口武志	H21. 4	熊本県菊池地域振興局農林部 農業普及・振興課	源田佳克	H20. 9	東京農工大学大学院連合農学研究科 博士（農学）ピーマンのウイルス病抵抗性品種育成に関する基礎的研究
宮崎英一郎	H21. 4	大分県中部振興局生産流通部 企画・流通班 副主任	浅井秀太	H21. 3	名古屋大学大学院生命農学研究科 博士（農学）Regulatory mechanisms of radical burst via MAPK signaling and its role in plant immunity（ラジカルバーストのMAPK シグナル伝達を介した調節機構と植物免疫における役割）
松浦 明	H21. 4	宮崎県総合農業試験場生物環境部 主査	赤松真子	H20. 5	京都大学大学院農学研究科 博士（農学）Studies on the regulation of function of <i>Brome mosaic virus</i> 3a movement and coat proteins
濱島朗子	H20. 4	鹿児島県農政部 食の安全推進課 生産環境係 技術主査	岩橋福松	H20. 5	京都大学大学院農学研究科 博士（農学）Studies on the mechanism of symptom development in <i>Bromovirus</i> -infected plants
尾川宜広	H20. 4	鹿児島県農業開発総合センター 果樹部 環境研究室 主任研究員	窪田昌春	H21. 3	京都大学大学院農学研究科
尾松直志	H21. 4	鹿児島県農業開発総合センター 茶業部 研究専門員			
新屋敷生男	H21. 4	鹿児島県鹿児島地域振興局農林水産部日置支所 技術主査			
富濱 毅	H21. 4	鹿児島県大隈地域振興局農林水産部曾於支所 技術主査			
中西善裕	H21. 4	鹿児島県農業総合開発センター 大島市場 主任研究員			
西 菜穂子	H21. 4	鹿児島県南薩地域振興局農林水産部 技術主査			
河野伸二	H21. 4	沖縄県農業研究センター 病虫管理技術班 班長			

2. 学位取得者（課程博士・論文博士）

厚見 剛	H21. 3	北海道大学大学院農学院 博士（農学）感受性植物におけるウイルスの強毒性発揮機構の研究			
大場淳司	H21. 3	岩手大学大学院連合農学研究科 博士（農学）宮城県におけるムギ類赤かび病の発生生			

- 博士（農学）キャベツの集中育苗において発生する病害とその防除に関する研究
- 岩本 豊 H21. 3 神戸大学大学院農学研究科 博士（農学）レタスピッグベイン病の総合防除に関する研究（勤務先：兵庫県農業技術センター）
- 屈 平 H20. 9 岐阜大学大学院連合農学研究科 博士（農学）Study of mating phenomena of *Rhizoctonia solani*
- Farjana H21. 3 岐阜大学大学院連合農学研究科 博士（農学）Systemic resistance and its mechanisms in *Arabidopsis* induced by plant growth promoting fungi (PGPF)
- Sultana H21. 3 岐阜大学大学院連合農学研究科 博士（農学）水媒伝染性植物病原菌 *Pythium helicoides* の分子生態学的研究
- 銀 玲 H21. 3 岐阜大学大学院連合農学研究科 博士（農学）Population structure of the *Fusarium graminearum* species complex from Japanese locations and eastern China
- Gladys H21. 3 岐阜大学大学院連合農学研究科 博士（農学）Population structure of the *Fusarium graminearum* species complex from Japanese locations and eastern China
- Wairimu H21. 3 岡山大学大学院 博士（農学）愛媛県におけるイチゴ炭疽病並びにレタス斑点病の発生生態の解明と防除法の確立に関する研究（勤務先：愛媛県農林水産研究所）
- Karugia H21. 3 愛媛大学大学院連合農学研究科 博士（農学）高温で機能するトバモウイルス抵抗性に関わるウイルスエリクターの分子遺伝学的解析
- 奈尾雅浩 H21. 3 愛媛大学大学院連合農学研究科 博士（農学）青枯病菌の病原性に関する研究—病原性関連遺伝子の発現制御機構の解明—
- 松元克俊 H21. 3 鳥取大学大学院連合農学研究科 博士（農学）ニホンナシ
- およびカキに発生した数種新病害の病原菌に関する研究（勤務先：鳥取県農林総合研究所園芸試験場環境研究室）
- 鍛冶原 寛 H21. 3 鳥取大学大学院連合農学研究科 博士（農学）Japanese yam mosaic virus (JYMV) 弱毒系統を用いたヤマノイモモザイク病の防除と JYMV の分子遺伝学的解析（勤務先：山口県農林総合技術センター）
- 故 衣川 勝 H20. 9 香川大学（愛媛大学大学院連合農学研究科）博士（農学）香川県栽培果樹の植物病害に関する研究（元香川県農業試験場病害虫防除所長）
- 西村 聡 H21. 3 香川大学（愛媛大学大学院連合農学研究科）博士（農学）ACR 毒素の宿主特異性決定機構に関する分子生物学的解析
- 宮本蓉子 H21. 3 香川大学（愛媛大学大学院連合農学研究科）博士（農学）*Alternaria alternata* タンゼリン系統の ACT 毒素生合成クラスター遺伝子の分子機能解析
- 後藤高弘 H21. 3 九州大学大学院生物資源環境科学府 博士（農学）イネ白葉枯病抵抗性遺伝子のマッピング
- 黒瀬大介 H21. 3 九州大学大学院生物資源環境科学府 博士（農学）植物病原菌を用いたヨーロッパにおけるイタドリの伝統的生物防除に関する研究
- 山頭亜紀子 H21. 3 鹿児島大学大学院連合農学研究科（佐賀大学）博士（農学）野生 *Setaria* 属植物であるエノコログサおよびアキノエノコログサから分離された日本産いもち病菌の分類学的位置付けおよび生態学的諸性質に関する研究
- 松浦昌平 H21. 3 鹿児島大学大学院連合農学研究科 博士（農学）キクに発

生するトスポウウイルスの診断、発生要因およびトラップ植物による防除に関する研究（勤務先：広島県立総合技術研究所農業技術センター）

3. 海外長期出張者

(1) 大学関係

荒川征夫

名城大学農学部 スイス連邦工科大学（平成 21 年 4 月 14 日－平成 22 年 3 月 16 日）

【「日本植物病名データベース」近日公開！】

9 月 1 日より 2000 年版日本植物病名目録のデータベースと検索システムを、農業生物資源研究所ジーンバンクのウェブサイトを通じて公開します。

このデータベースは宿主植物、病名、ローマ字病名、英病名、病原学名等、出典（文献）、備考などの情報を属性別に整理し互いに関連付けたリレーショナル・データベースです。

http://www.gene.affrc.go.jp/databases-micro_pl_diseases_list.php にアクセスすると、最初に宿主植物群別「索引」（書籍の目次に該当）と同時に「病名や病原から検索することも可能です。」という注書きが表示され、いずれからも検索・閲覧することが出来ます。キーワード検索によりヒットした全病害の主要データを Microsoft 社の Excel 形式でダウンロードすることも可能です。

利用例 1)

「索引」の各植物群を選択すると宿主植物が科ごとにリストアップされるので、目的の植物名を選択して全病名を表示させ、続いて各病名をクリックして「病害の詳細」ページを開き閲覧する。

利用例 2)

初期画面の「病名や病原から検索」をクリックするとキー

ワード検索画面が現れる。キーワードには植物（宿主）、病名および病原（微生物等）があり、1 項目でも入力すれば検索可能である（図）。キーワード入力後「上記条件で検索」ボタンを押すと、検索結果が一覧表示されるので、各病名等をクリックし 1 件ずつ詳細データを閲覧する。

今後、農業生物資源ジーンバンク事業の微生物株情報とリンクするシステムを開発する予定です。本データベースと検索システムに関するお問い合わせやご意見などがありましたら以下を通じてお寄せ下さい。

<http://www.gene.affrc.go.jp/contacts.php>

農業生物資源研究所 佐藤豊三

【書評】

山田昌雄 著「日本の植物病理学の草創の時代と、白井光太郎の生涯」70 頁、発行：2009 年 3 月、日本植物防疫協会植物防疫資料館、（本誌無料、送料 240 円、直接申込み）

歴史をひもどくことは、常に知的興奮を覚えさせてくれる。本書は書名のとおり、日本の植物病理学の草創の時代を概観するとともに、日本における植物病理学の創始者の一人で、日本植物病理学会の初代会長である白井光太郎の生涯を数多くの資料によってままとめたものである。

明治維新の頃の日本は、西洋に追いつくことを最大の命題として、すべての分野で試行錯誤が行われたが、その中において植物病理学分野も紆余曲折はあったものの着実に歩を進めていった状況が丁寧に描かれている。

日本の植物病理学の草創期に本分野をリードしていったのは駒場農学校、札幌農学校、農事試験場の 3 組織においてであり、本学会の会長も第 1 代から第 6 代まではこれら組織の教授、部長であった白井光太郎、宮部金吾、堀正太郎の各氏が交替で勤めていた。それぞれの組織の中ではいろいろな経緯があった訳で、その変遷について細かに触れられている。ただ全体をみて感じるのは、駒場農学校と札幌農学校の組織の変遷を眺めると札幌に比べ駒場では組織の改編があまりにも多いのに唖然とする。

後半は白井光太郎氏の業績と人となりについてまとめている。白井氏は福井藩士の出で、江戸で生まれ、幼少の頃英語、習字などを旧藩主松平春嶽公から、教わったという。長じて帝国大学で植物学を学び、卒業後は東京農林学校に就職、その後組織改編等あり東京帝国大学を退官するまでの 39 年に及ぶ、植物病理学への貢献や、幅広い交友関係について述べられている。

白井氏は退官後、本草学に力を入れ、多くの業績をあげられた。氏の最期も本人の調合した漢方薬（トリカブトが主成分）の服用が原因で劇的な最期を遂げられるのだが、

このあたりについても数多くの資料により丁寧に書き込まれている。氏の葬儀に当たって読まれた牧野富太郎の弔辞が胸を打つ。

本書をまとめた山田昌雄氏は白井氏の後輩だが、当然のことながら面識は全くないという。それでもご遺族をはじめとする多くの方々への取材、残された遺品等を精査してこのような書にまとめられた。氏の精力的な努力なくしては、我々の大先達である白井光太郎の生涯が埋もれてしまいかねなかった。また、このような資料を印刷し、植物防疫資料館資料として残すことにした日本植物防疫協会に敬意を表したい。

なお、この書籍は日本植物防疫協会が限定出版をしているもので、送料（240円）を送れば希望者には無料で送付されている。このたぐいの資料はえてして印刷されることで終わっているケースが多い。せっかくの機会であり、最近増刷もされたと聞くので、是非申し込みの上一読されんことをお勧めしたい。

(浅賀宏一)

(申込先：〒187-0011 東京都小平市鈴木町2-772 日本植物防疫協会 植物防疫資料館 TEL：042-381-1632)

【学会ニュース編集委員コーナー】

学会ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたくお願いします。

投稿宛先：〒170-8484 東京都豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX：03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

加来久敏、築尾嘉章、桑田 茂、植草秀敏、佐藤 衛
各委員宛

編集後記

学会ニュース第47号をお届けいたします。本号では、新名誉会員及び永年会員のご紹介と会員の人事異動が中心の内容です。

最初に新名誉・永年会員に選ばれた方々の長年にわたる学会へのご貢献に深く感謝の意を表するとともに、国内外での精力的なご活躍に対して敬意を表したいと思えます。とくに名誉会員のお二人の文末での学会に対する希望、その凝縮されたメッセージを深く受けとめたいと考えます。次に学会活動状況では学生優秀発表賞の受賞者を掲載していますが、受賞者のこれからのますますのご発展を祈念いたします。そして、会員の動静が続きますが、今春も実に多くの方々的人事異動がありました。退職された会員の方々、長い間大変お疲れ様でした。また、異動された皆様、新しいポストでの大いなるご活躍を期待しております。さらに学位を取得された方々、どうもおめでとうございます。

これから、国際研究交流や談話会のシーズンを迎えますが、それらのレポートに限らず、この学会ニュースへの投稿を期待しております。

(加来久敏)
